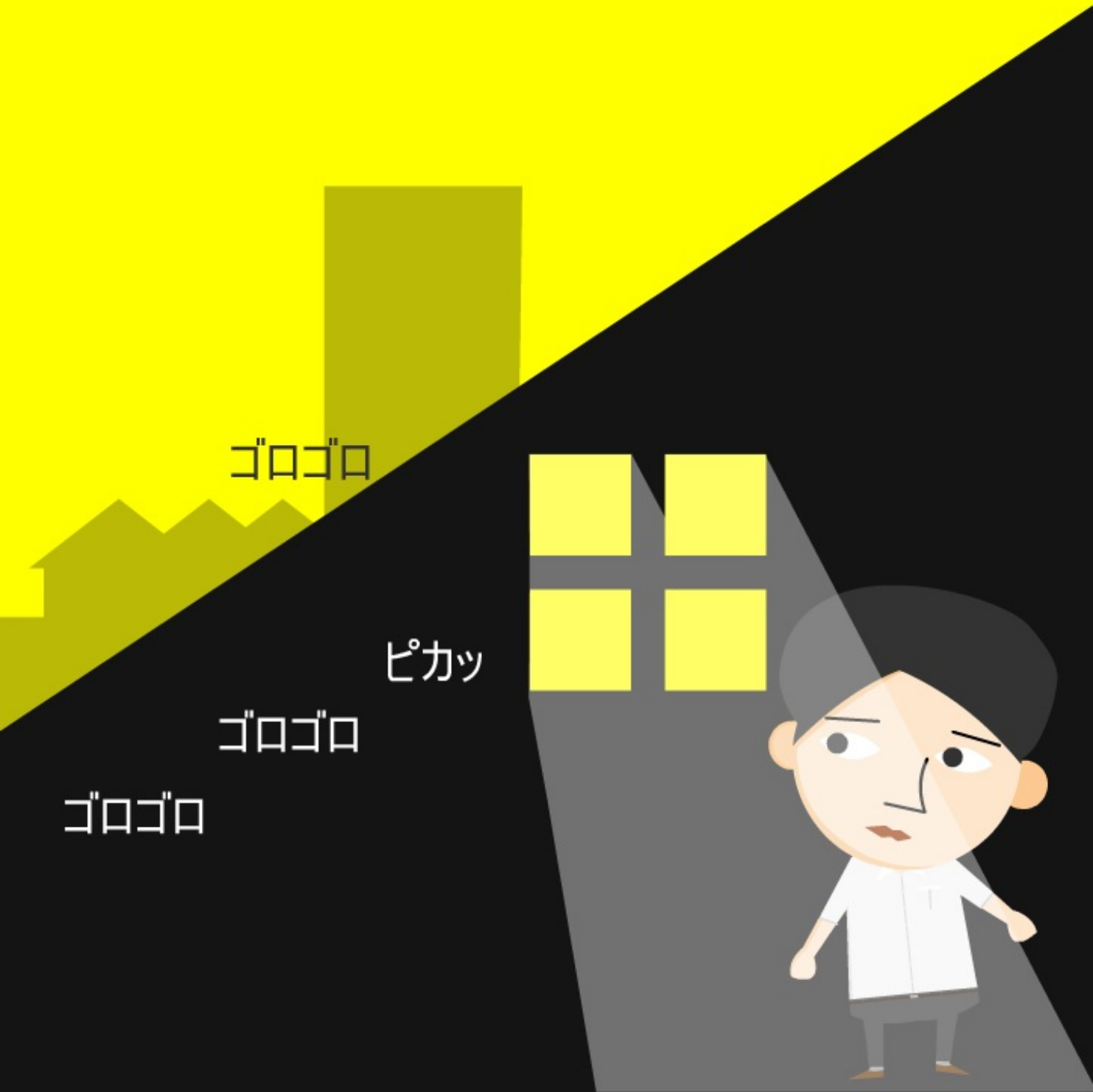
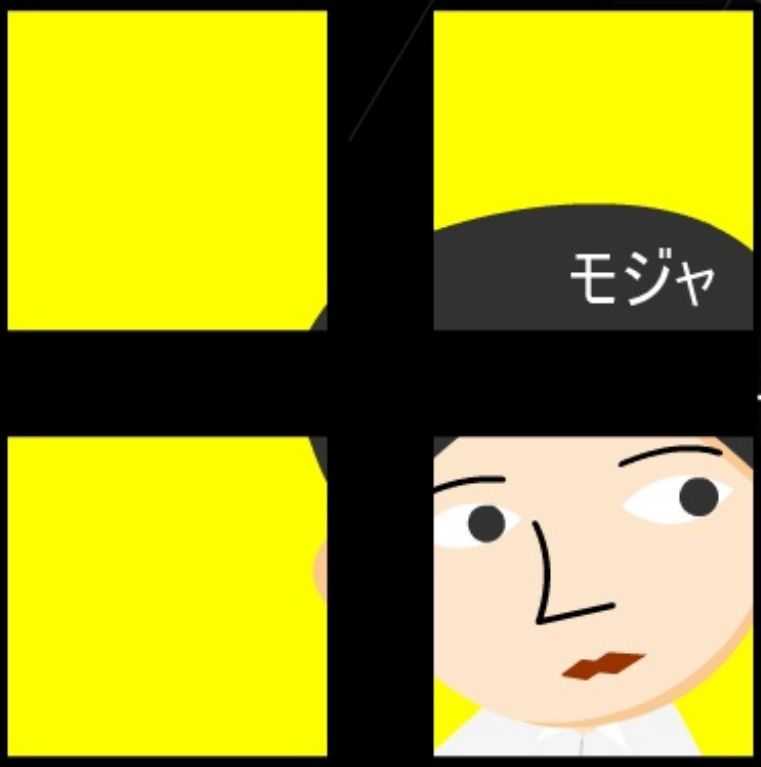
モジャモジャ
生えた

作　つばきとよたろう

今、ピカッ　ゴロゴロと光って、電灯が消えた。
部屋の中は真っ暗になった。



電灯(でんとう)がついて、部屋(へや)の中(なか)が明(あか)るくなった。
降(ふ)ってきたようだけど、雨音(あまおと)がしない。
代(か)わりに妙(みょう)な音(おと)が聞(き)こえてきた。



モジャ

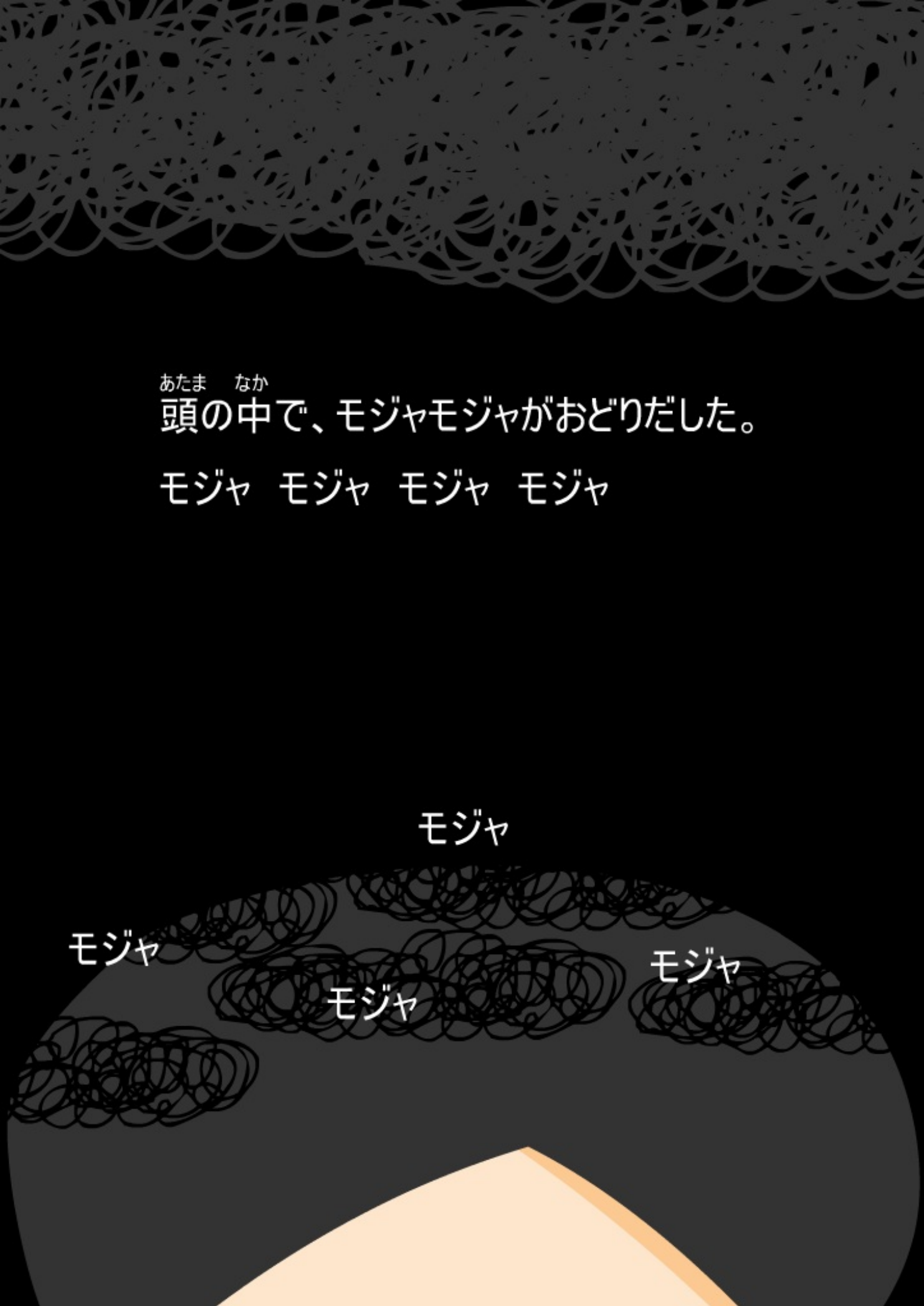
モジャ

モジャ

モジャ　　モジャ

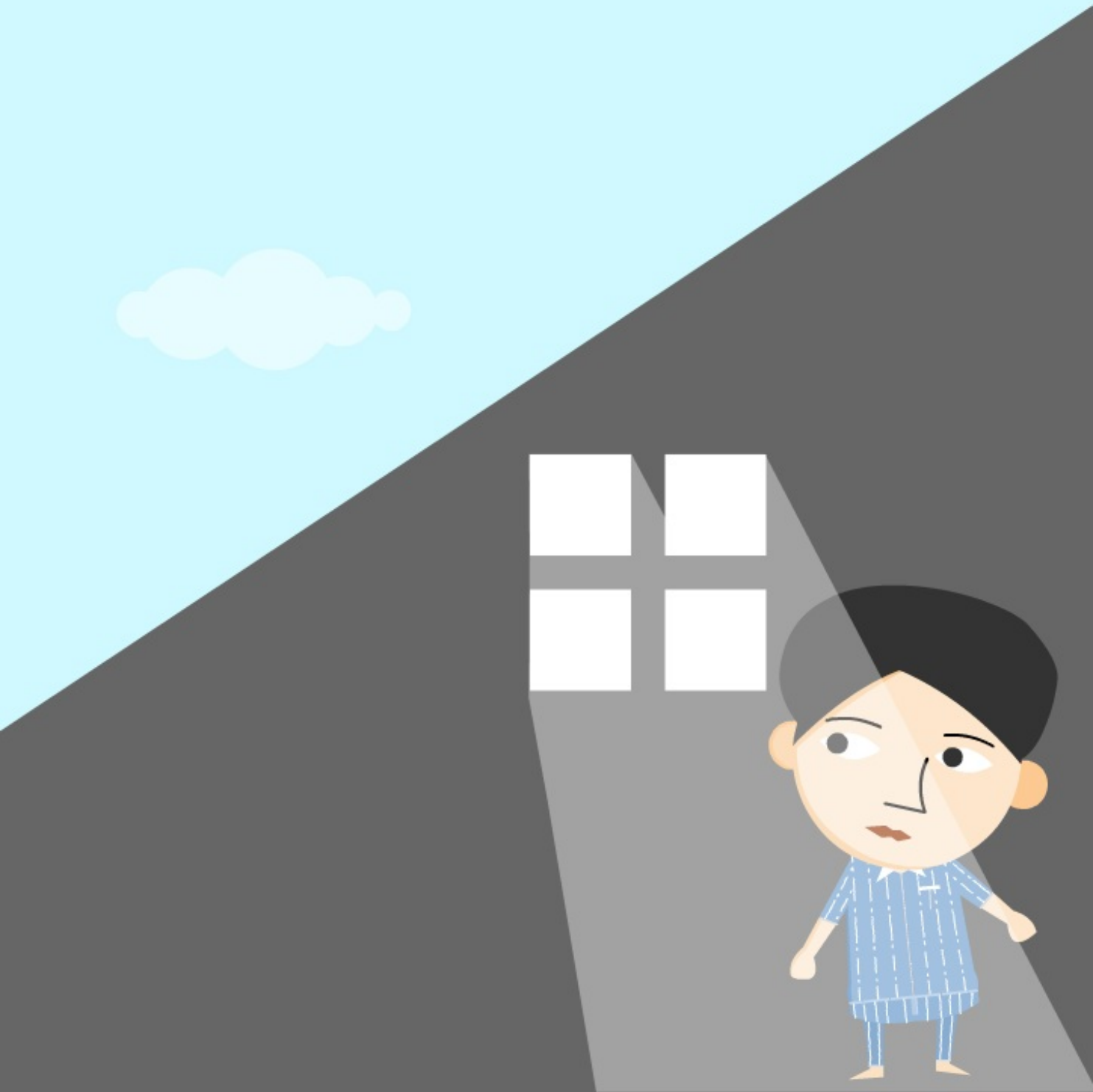
モジャ　　モジャ

モジャモジャ　モジャモジャ　何(なん)の音(おと)だろう？


頭の中で、モジャモジャがおどりだした。
モジャ　モジャ　モジャ　モジャ
モジャ
モジャ
モジャ
モジャ

朝起きたら、外はすっかり晴れていた。

モジャモジャも消えていた。



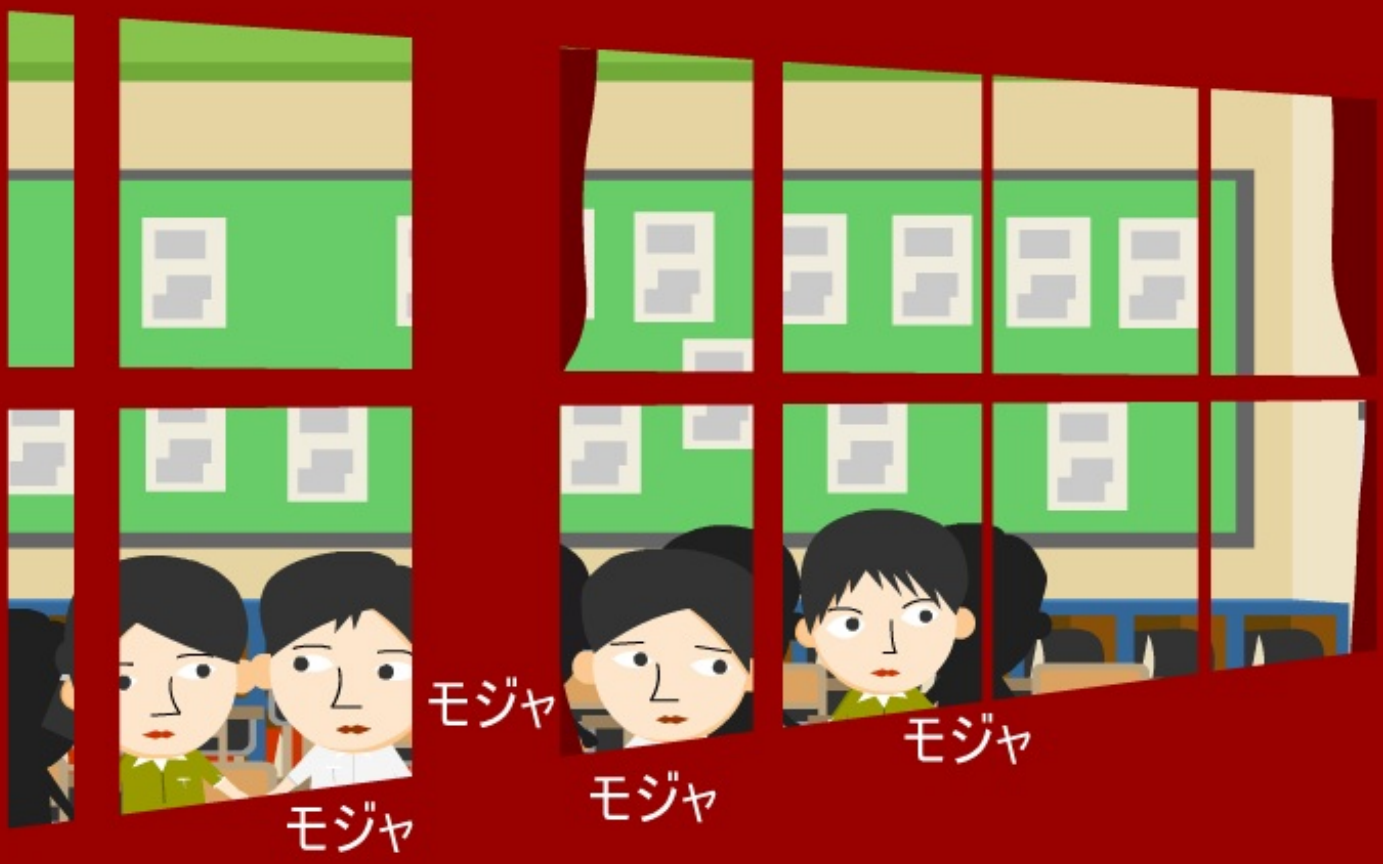
モジャモジャの正体(しょうたい)は、何(なん)だったのだろう？

学校に向かう道で、変なものを見つけた。いつもは水たまりのできる所に、動物の毛のような物がモジャモジャと生えていた。

地面から生えてきたのかな？

獣が穴を掘って隠れているのかな？

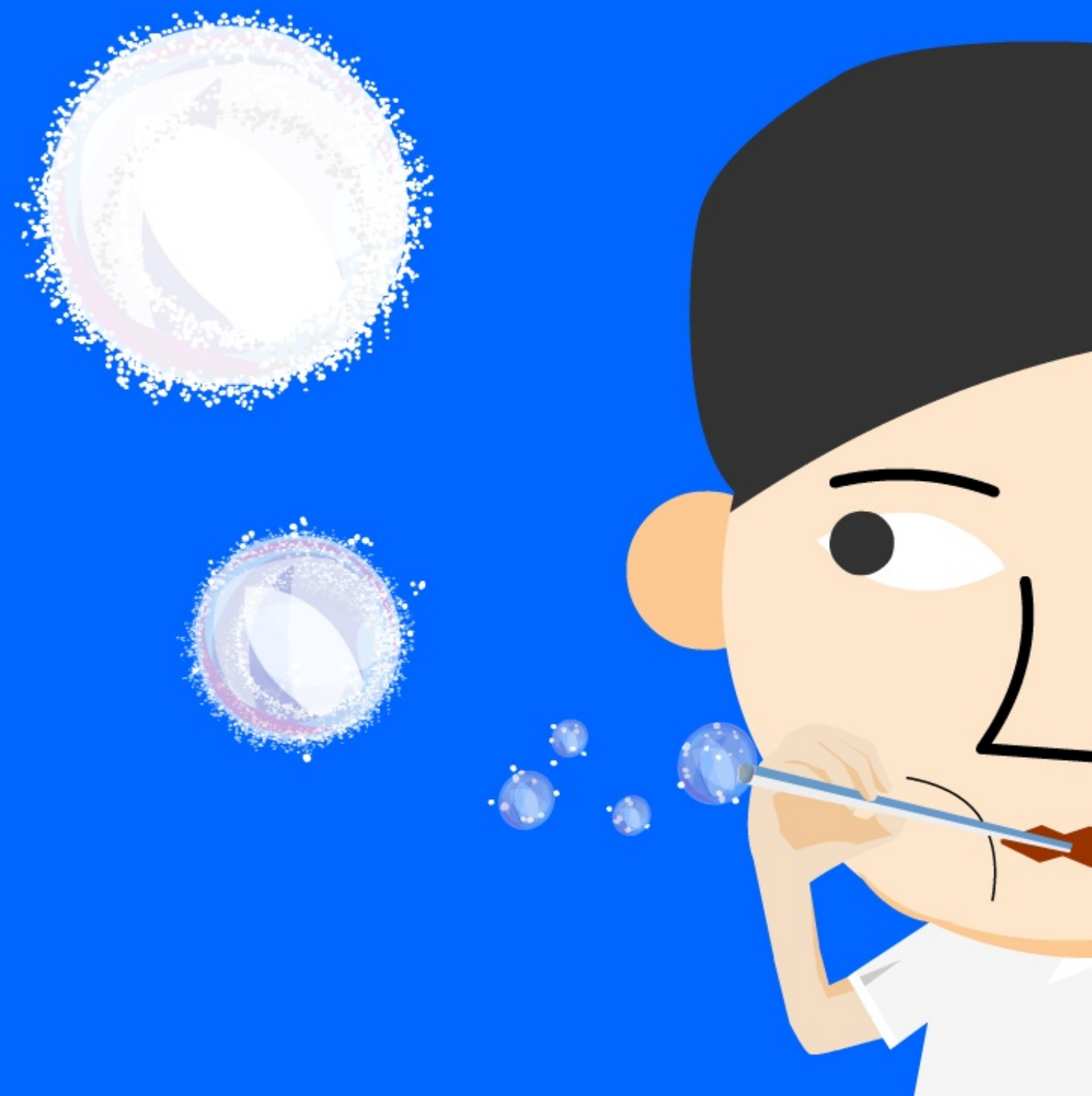
わっと声を出して驚かしても、モジャモジャは動かなかった。そこはやっぱり水たまりで、水面から奇妙な毛が生えているようだった。他にも昨日とは、どこか町の様子が違っている気がした。



教室(きょうしつ)は、モジャモジャのうわさで持(も)ち切(き)りだった。みんなは、登校(とうこう)の途中(とちゅう)で目(め)にした不思議(ふしぎ)なものについて言(い)い合(あ)った。

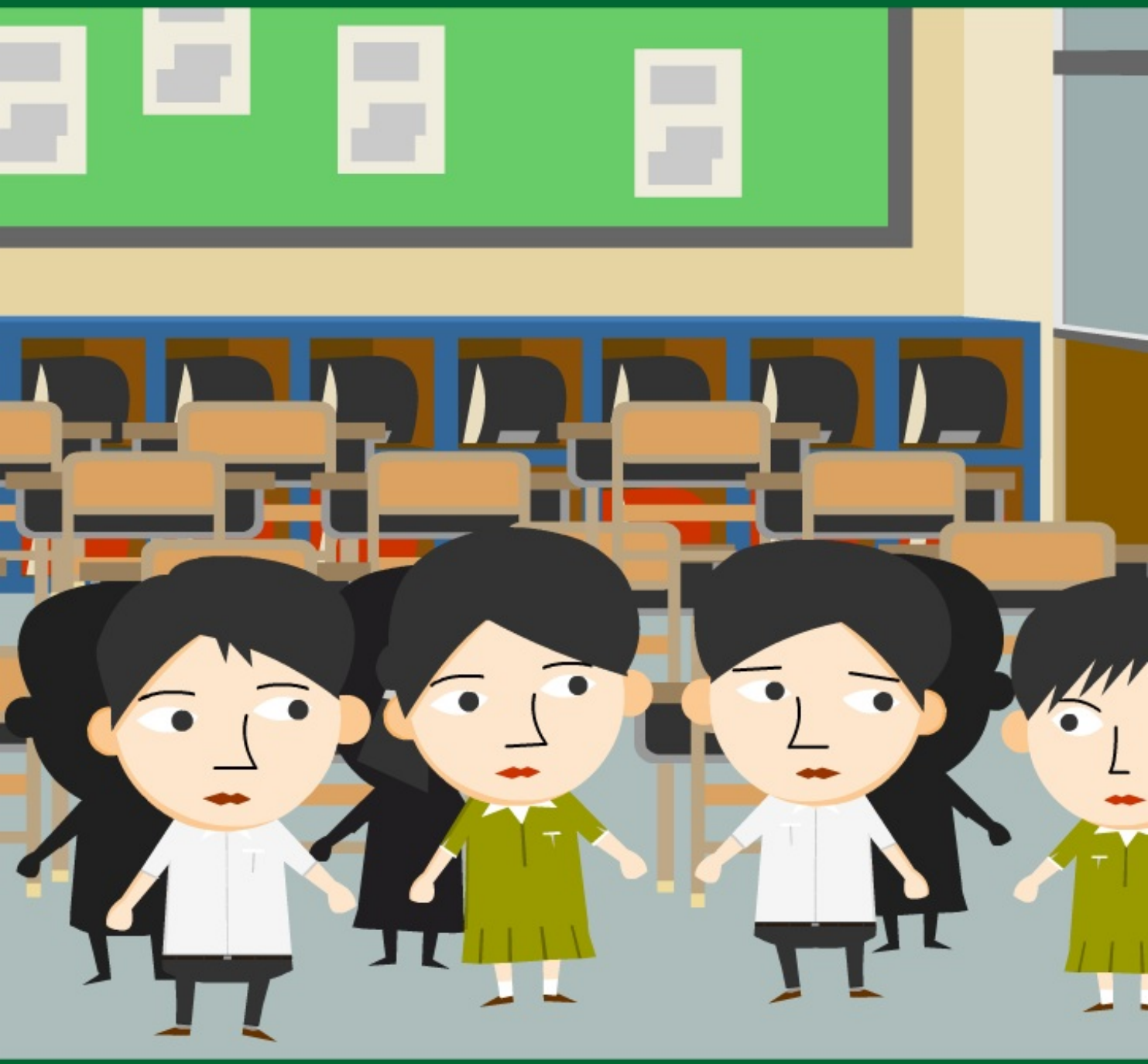
一本毛の生えた車を見つけた。車の持ち主は、どうやっても
その毛が抜けないって困っていた。
リボンを結べば、かわいくなるのにね。

モジャモジャの水たまりに洗剤を混ぜたら、シャボン玉がタンポポのように綿毛になって飛んでいった。

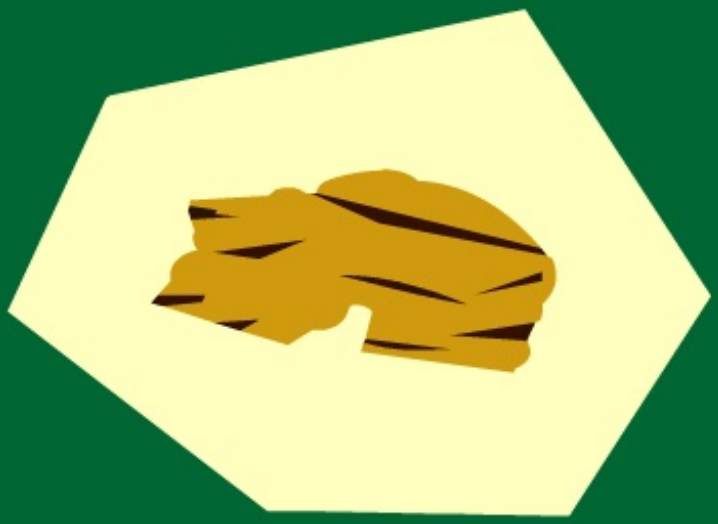


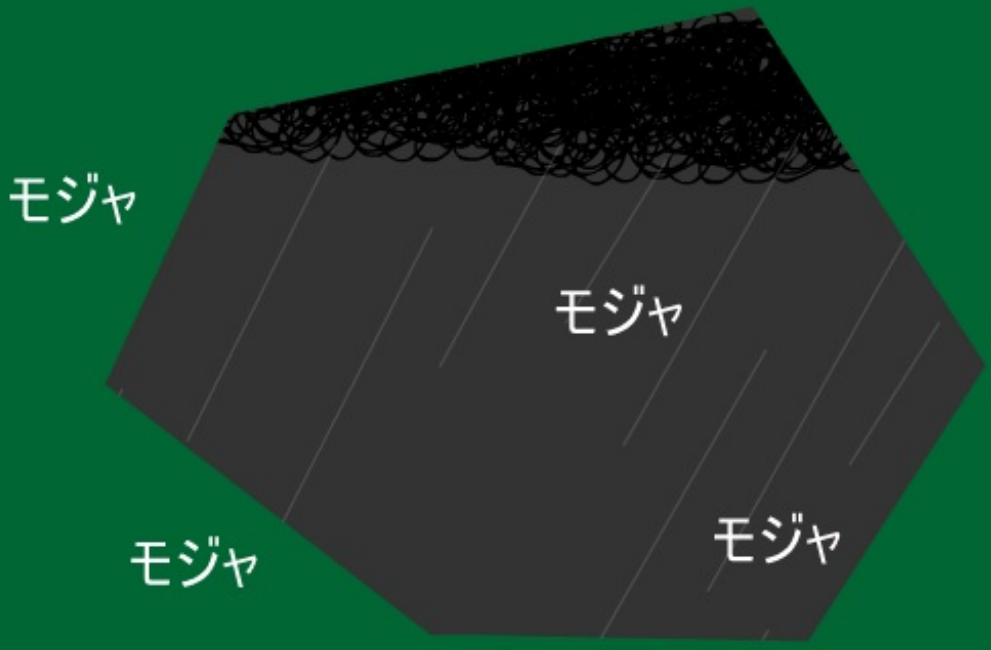
飛(と)んでいけ！　飛(と)んでいけ！

綿毛(わたげ)のシャボン玉(だま)は、どこまでもどこまでも高(たか)く、青(あお)い空(そら)へのぼっていった。



一晩、くつを外に干したままにしていたら、
毛皮のくつに変わっていた。
ぼくは、体操着が毛皮のパンツになっちゃった。
どうも昨日のモジャモジャの雨が原因らしい。



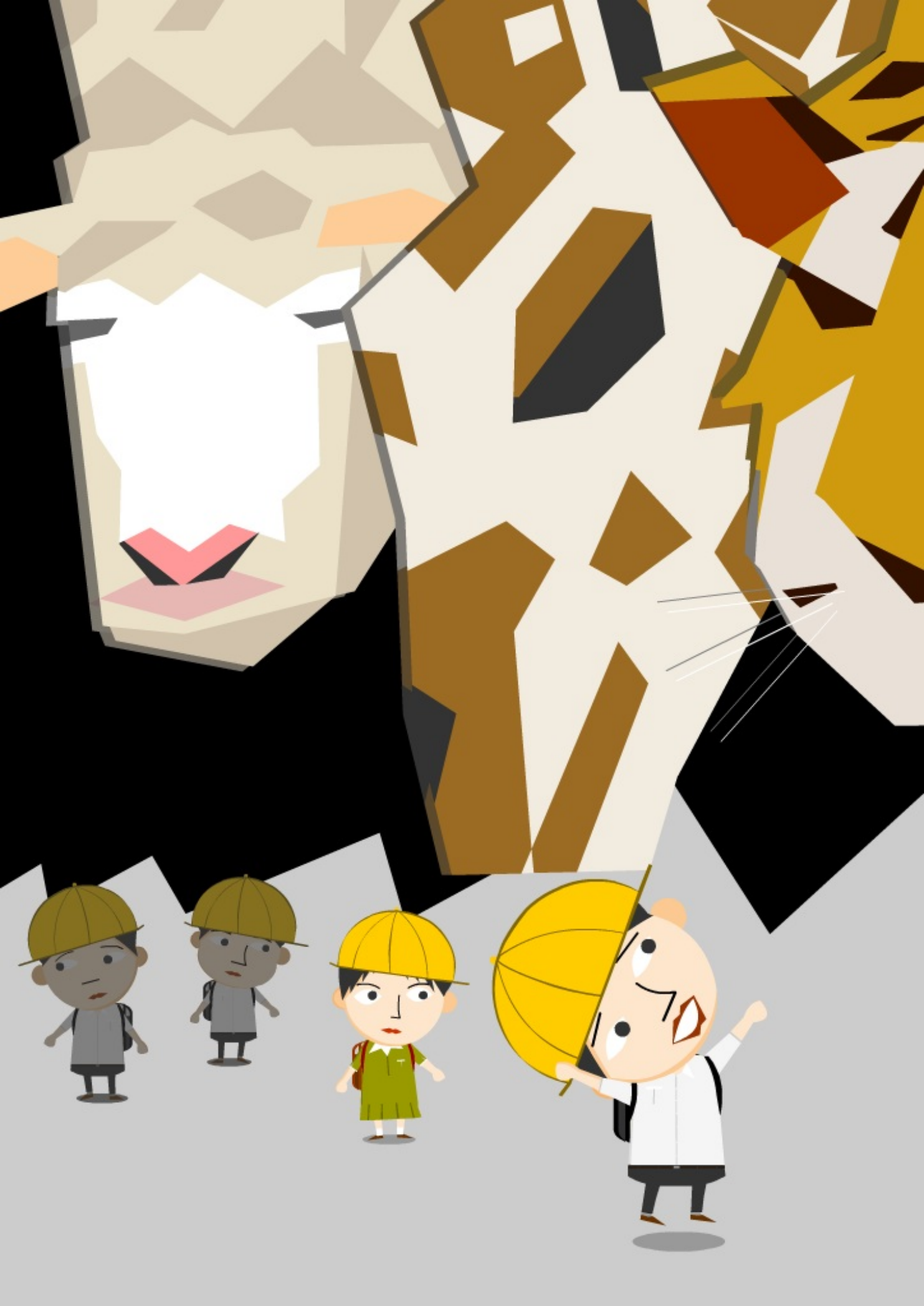

モジャ
モジャ
モジャ
モジャ

とつぜん現(あらわ)れたのは、ライオンのような車(くるま)だった。
これもあの不思議(ふしぎ)な毛(け)のせいなのかな？
町(まち)の車(くるま)が、全部動物(ぜんぶどうぶつ)になったらいいのにね。

学校の帰り道は、大変なことになっていた。

あのモジャモジャの毛が、町をおおい尽くしていた。

建物(たてもの)にはすっかり奇妙(きみょう)な毛(け)が生(は)えて、トラやシマウマの家(いえ)、
高(たか)いビルはキリンに変(か)わっていた。
町中(まちじゅう)が大(おお)きな動物(どうぶつ)であふれていた。



まるで巨大(きょだい)な動物(どうぶつ)が、見下(みお)ろしているようだった。

どこもかしこも毛だらけ。みんなの体にも毛が生えてきた。

オー、オー！　みんな裸になって叫んだ。

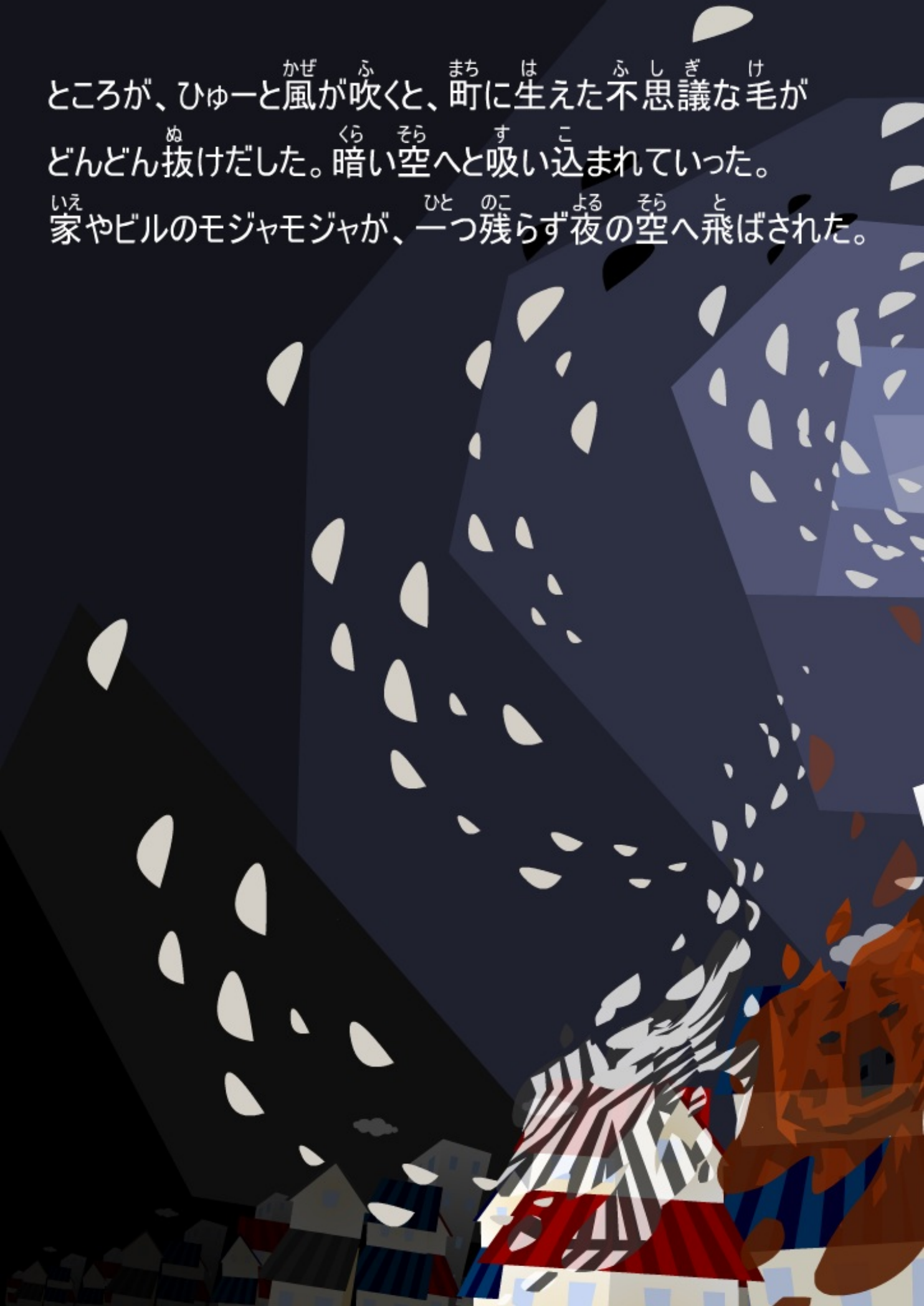
原始時代に戻ったように、野山をかけめぐった。

外でも綿毛に包まれているように暖かかった。眠くなった。

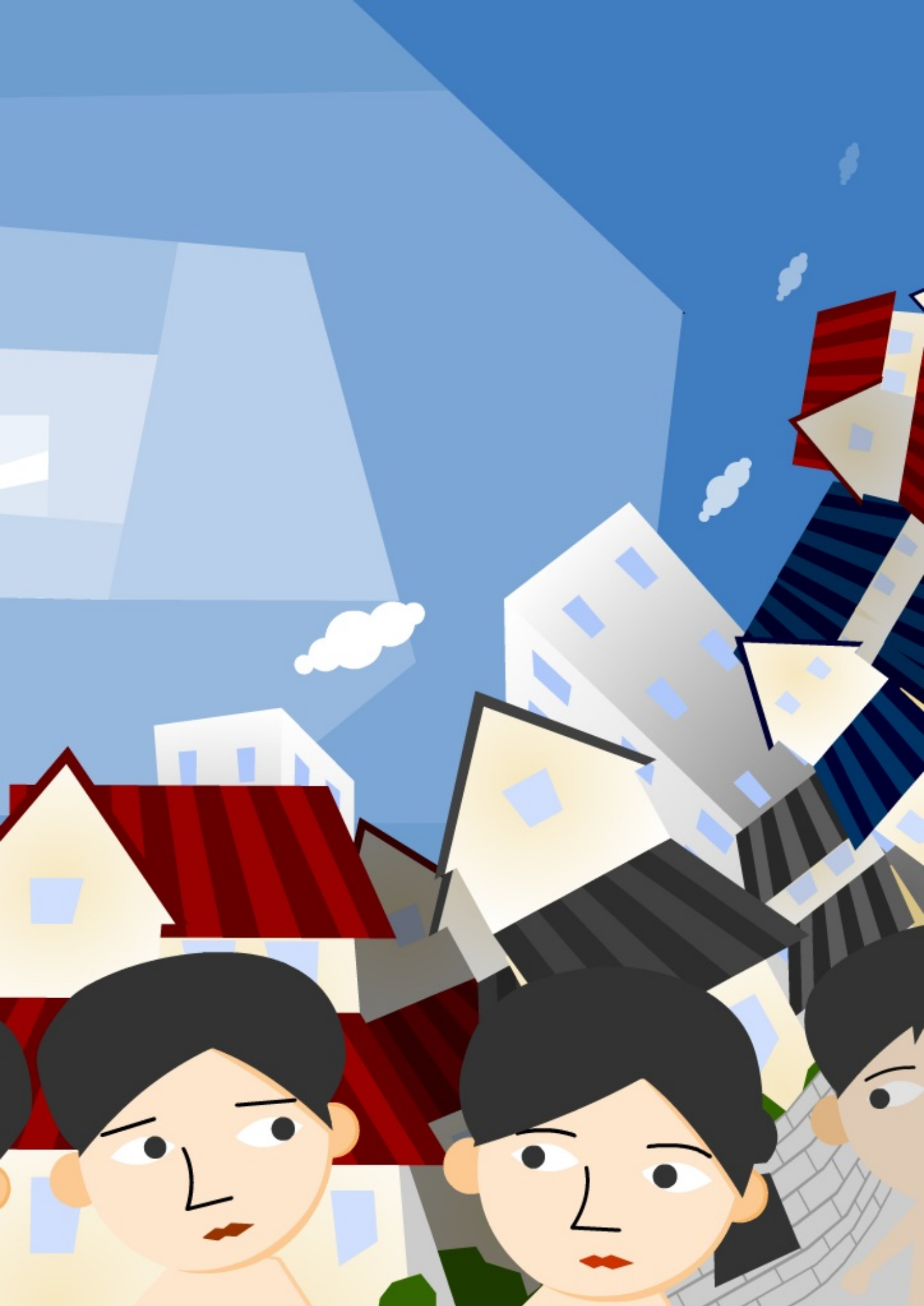
うとうとしていると、どこからともなく穏やかな風が吹いてきて

毛玉を飛ばした。

ところが、ひゅーと風が吹くと、町に生えた不思議な毛が
どんどん抜けだした。暗い空へと吸い込まれていった。
家やビルのモジャモジャが、一つ残らず夜の空へ飛ばされた。



翌朝(よくあさ)、なぞの毛(け)は全(すべ)て消(き)えて、町(まち)は元通(もとどお)りになっていた。
建物(たてもの)が日(ひ)の光(ひかり)に照(て)らされて輝(かがや)いているように見(み)えた。
体(からだ)の毛(け)が無(な)くなって、みんな裸(はだか)だった。
みんなで大笑(おおわら)いした。



おわり